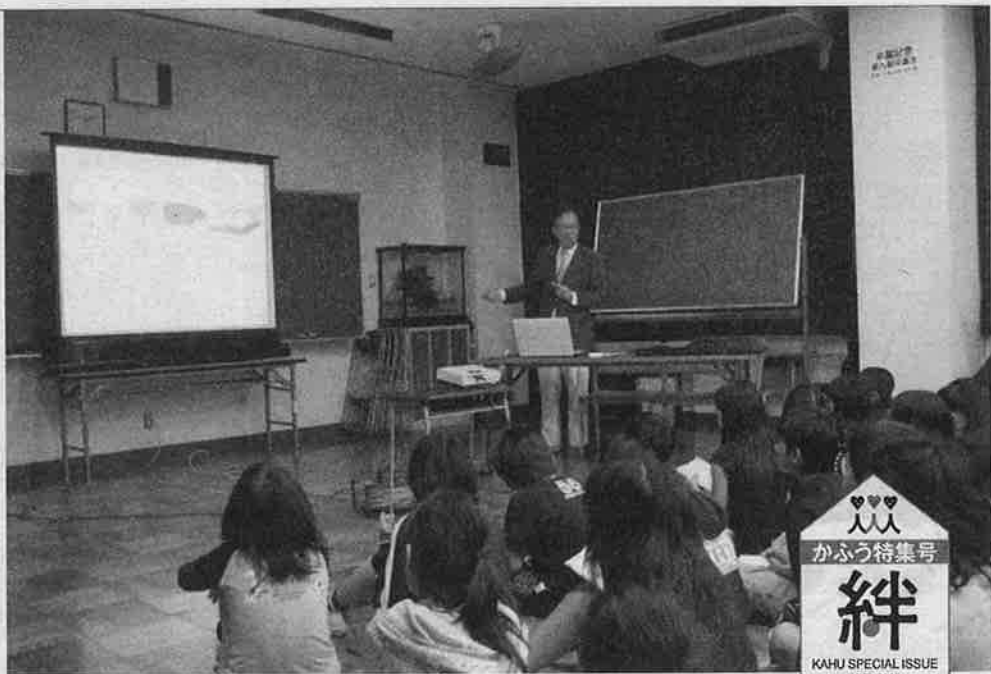




出前講座に行ってきました

小学校出前講座

地震・津波・台風から命を守るために

建築物の耐震化と防災への関心を高めようと、NPO法人「沖縄県建築設計サポーターセンター」(浦添市安波茶)は2月19日、那覇市立曙小学校で出前講座を行いました。5年生60名が出席し、講座後は質問が相次ぎました。



本島沖の地震では津波到達まで約30分 学校施設の耐震化の促進が急務

ツプの内容について詳しく解説しました。

授業後は質疑応答の時間です。児童からは「津波情報の種類を知りたい」「津波はどのくらいの速さでやって来るのか」といった質問が出されました。

まず津波の情報については、3月7日から変更になり、気象庁は津波災害が予想される場合に地震発生から3分以内を目標に、大津波警報、津波警報、津波注意報を発表します。予想される津波の高さが3メートルを超えるときは大津波警報、1～3メートルのときは津波警報、0・2～1メートルのときは津波注意報と種類分けされています。

次に津波の到達速度については、県が作成した津波浸水予測図が参考になります。曙小学校のある那覇港

ハザードマップなどの情報を日頃から確認し 災害時は想定にとられず全力で避難を

沖縄県建築設計サポーターセンターでは、本年度から県の委託業務として「建築物の耐震化促進支援事業」を実施しており、今回の出前講座は同事業における「耐震等普及啓発活動」の一環です。児童には県土木建築部建築指導課監修の「防災・減災ハンドBOOK 沖縄版」が配布され、センター職員の天野輝久氏が授業を行いました。

授業のタイトルは「地震・津波・台風から命を守れ!」です。まずは自助と共助による防災・減災の大切さを確認した後、自然災害が起るメカニズムについて説明があり、合わせて沖縄での被害記録が示されました。例えば沖縄は地震が少なく、

南米から沖縄へ約24時間かけて襲来し、津波の進行方向とは反対の西海岸にも被害を及ぼした1960年のチリ地震津波などがよく知られています。それでは災害から身を守るためには、どのような対策が考えられるでしょうか。

天野氏は、東日本大震災で役立った指針として、「想定にとられるな」「最善をつくせ」「真つ先に逃げる」という避難の三原則を紹介しました。また避難場所を示す標識や海拔表示、ハザードマ

エリアでは、マグニチュード7・8の地震が本島南西沖、あるいは久米島北方沖で発生した場合、第一波の到達時間はそれぞれ28分、35分と想定されていることが、天野氏によって示されました。

ところで、県内の公立学校の耐震改修状況は、昨年4月に文部科学省が発表した調査によると、中小学校の耐震化率が78%、高校が89・9%でした。高校は全国平均より7ポイント強高いものの、中小学校は全国平均の84・8%を大きく下回っていました。さらに対前年度比の耐震化伸び率を見ると、県内が1・2ポイント増なのに対して、全国平均は4・5ポイント増と大きな開きがありました。国が目標とする、平成27年度までの公立学校施設耐震化完了まであとわずか。予算が優先的に充たされた本年度でどれだけの伸び率を示すことができたのか、8月の公表内容が注目されます。

